

日本多施設共同コーホート（J-MICC）研究  
平成 29 年度 第 1 回 研究モニタリング委員会

日 時：平成 30 年 3 月 9 日（金） 10 時 00 分～12 時 00 分  
場 所：TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター ミーティングルーム 4W  
（東京都中央区京橋 1-7-1 戸田ビルディング 4 階）

出席者：井上真奈美（委員長）、岩崎 基、尾島俊之、中釜 斉、  
（敬称略） 寶澤 篤、村上善則（以上、委員）  
若井建志（主任研究者）、内藤真理子（中央事務局長）

1. 平成 28 年度第 1 回研究モニタリング委員会議事録の確認（資料 1）

平成 28 年度第 1 回研究モニタリング委員会議事録の内容を確認した。

2. 主任研究者、中央事務局長の交代について（昨年 3 月交代）（資料 2）

主任研究者（若井）より、2017 年 3 月 20 日に主任研究者が田中英夫先生から若井に交代し、中央事務局長が若井から内藤に交代したことが報告された。さらに内藤の名古屋大学からの異動に伴い、2018 年 4 月からは当面の間、若井が中央事務局長を兼務する予定であることが述べられた。

3. 倫理審査、サイトビジットの実施状況（資料 3）

中央事務局（若井）より、名古屋大学および愛知県がんセンターの倫理審査委員会にて、主任研究者の交代、新規プロジェクトのための共同研究機関追加、J-MICC 研究新規地区の参画、1 地区の中止等について研究計画審査、あるいは研究計画変更を申請、承認されたことが報告された。また神奈川みらい未病コホートのベースライン調査（本調査）が 2017 年 6 月に開始されたことに伴い、同年 9 月にサイトビジットが実施されたことが報告された。

4. 研究参加者募集状況、第二次調査実施状況、追跡調査実施状況（資料 4）

中央事務局（若井）より、2017 年 11 月時点で、ベースライン調査の同意者数は約 76,000 名、J-MICC 連合をあわせて約 102,000 名、第二次調査の同意者数は約 43,000 名、J-MICC 連合をあわせて約 57,000 名になったことが報告された。また、生体試料数、研究参加者の追跡状況（在籍追跡中、転出、死亡、不明等の各人数の一覧）、死因分布、追跡期間別・部位別がん症例数が示された。

委員より愛知県がんセンターは、がん専門病院の初診患者を対象としており、がん

罹患者数、がん死亡者数がとくに多い特殊性があることから、愛知県がんセンターを除いた合計も示すことが提案された。さらに委員より、分析時にどのように扱うかの質問があり、また愛知県がんセンターでの病院疫学研究での基準などを参考にして、研究参加時から一定期間内にがんと診断された症例を除外してはとの助言があった。

#### 5. 横断研究実施状況（資料 5）

中央事務局（内藤）より、横断研究の進捗状況が報告された。個別 SNP などのタイピングによる横断研究は 32 論文が受理されていること、GWAS 用タイピングデータを用いた横断研究は、J-MICC 研究内で 3 回のテーマ募集を行い、31 件のテーマを採択、2 論文が受理され、3 論文が投稿中であることが述べられた。さらにベースラインデータによる横断研究については、J-MICC 研究内で 1 回目のテーマ募集を行い、27 件のテーマが採択されたことが述べられた。

#### 6. ベースラインデータの集計について（資料 6）

中央事務局（若井）より、35～69 歳の参加者 92,642 名について、性・年齢階級別の主な特性の集計結果が報告され、主な集計結果について study profile としての論文化、「関係資料（第 5 版）」への掲載、J-MICC 研究ホームページでの公表が予定されていることが述べられた。これに対し委員より、喫煙開始年齢に 20 歳未満の回答が相当数あるのは実態を反映していると思われる、貴重な結果であり早急に論文化することが期待される、などの意見が出された。

#### 7. 文部科学省新学術領域研究「コホート・生体試料支援プラットフォーム」について（資料 7）

主任研究者より、J-MICC 研究が現在、主な経費の助成を受けている文部科学省科学研究費（科研費）新学術領域研究「コホート・生体試料支援プラットフォーム」では、科研費による研究を支援することが役割になっていること、J-MICC 研究からは平成 29 年度に 136 件の研究支援を実施したことが報告された。研究者のネットワークによるものに加え、candidate approach による遺伝的多型データ、がん早期診断マーカー精度検証支援において、研究テーマ・共同研究者を公募したこと、今後はさらに GWAS 用タイピングデータによる横断研究、ベースラインデータによる横断研究についても共同研究者の公募を実施する予定であることが説明された。

委員より、科研費による研究が対象であることから、公募の情報については毎年度早めに、科研費の申請時期よりも先に公開することが必要であるとの意見が出された。

#### 8. 共同研究・研究支援について（資料 8）

中央事務局（内藤）より、J-MICC 全体研究と外部研究者との共同研究の一覧が提示され、6 つの枠組みで 60 件が実施中または予定されていることが報告された。また、本年度はがん早期診断マーカー検証（肺腺癌）の公募を行い、広報に注力したが、応募は 3 件で、うち 2 件が採択、1 件が条件付採択となったことが説明された。

これに対し委員より、がん早期診断マーカー検証の公募をしたこと自体は良かったのではないかと、公募は研究者で話題にはなっていた、検体数などより良い条件で公募する必要があるのではないかと、科研費申請時期の前に周知した方が良いなどの意見が出された。またオミックス解析や AMED のゲノム関連事業との連携を検討すべきとの指摘がなされた。

#### 9. J-MICC 研究ホームページについて（資料 9）

中央事務局より、J-MICC 研究ホームページ、およびコホート・生体試料支援プラットフォームのホームページについて現状が報告された。後者では、がん早期診断マーカー精度検証支援について、詳細な公募要領を掲載していることが述べられた。

#### 10. 学会・論文発表状況（資料 10）

中央事務局より、J-MICC 研究開始時からの論文・学会発表数（独自研究・共同研究含む）について、原著論文が計 154 編（うち J-MICC 研究全体のデータによるもの 35 編）、学会発表計 447 題（同 60 題）であることが報告された。このうち 2016 年 1 月以降の原著論文は 47 編（うち J-MICC 研究全体のデータによるもの 8 編）、学会発表 106 題（同 8 題）であった。

委員より、現在はカテゴリーごとに論文、学会発表がリストされているが、まず論文と学会発表を分け、それぞれの中でカテゴリーを分類する方が、リストが見やすくなるとの指摘があった。

#### 11. その他

中央事務局長より、名古屋大学からの異動により中央事務局を辞すにあたり、委員の長年の御支援への感謝が述べられた。

以上